

” 日本端子、自動車分野に注力”

環境がますます厳しくなる中、電気自動車 (EV) やハイブリッド車への移行は、高電圧端子の製造を専門とし品質と信頼性に誇りを持っている国際的に認められた企業にとって、大きなチャンスをもたらしています。

日本端子株式会社 代表取締役社長 河野二郎

「私たちは製品づくりに誇りと喜びを感じており、お客様の信頼を得るために懸命に努力してきました。」

1960年に創業したコネクタメーカーである日本端子は、家電製品、OA機器、自動車、通信機器などさまざまな業界で製品が使用されています。

河野二郎社長は人材不足を「経営上の大きな課題」としながらも、将来については楽観的です。「自動車市場は現在、100年に1度の変革期を迎えています。」と彼は言います。「そして私たちは、引き続きそこに注力していきます。同時に、温水洗浄便座などサニタリーや洗濯機などの主要家電を含む民生市場など、他の市場向けの事業ポートフォリオも計画しています」

自動車市場に関しては、主な製品として、「@SeesawEdge」(K86 または K91 としても知られる) が挙げられます。これは、シーソーのように動いて、基板と2つの接触点を形成するカードエッジコネクタです。K87シリーズは、コネクタ一体化のコンセプトに基づいた製品であり、電線対電線のコネクタが不要となって大幅なコスト削減を可能にした製品です。

一方、ビール醸造所跡地に新たな敷地を取得することで、同社はEV用の大型高電圧部品を生産するより広いスペースを得られると共に、「地域環境と地域社会に積極的に貢献する」機会も得ることとなります。

河野氏は、シカゴ、バンコク、中国にオフィスを構えながら、人口が多く急成長している市場への進出も目指しており、潜在的なターゲットとしてインドを挙げています。

もっと身近なところでは、彼の志はより控えめです。「私たちの最終的な目標は、地域住民、学生、サステナブル経営に尽力する人々など、私たちのステークホルダーとさらに強固な関係を築き続けることです。」と彼は言明します。